

青森農研フラッシュ

(地独)青森県産業技術センター農林部門

研究成果

コンパクトで掘り取りしやすいナガイモ有望系統「園試系短8号」

地方独立行政法人青森県産業技術センター野菜研究所

掘り取りしやすく、流通業者や消費者に求められているコンパクトな短太系統のナガイモ「園試系短8号」を育成しました。

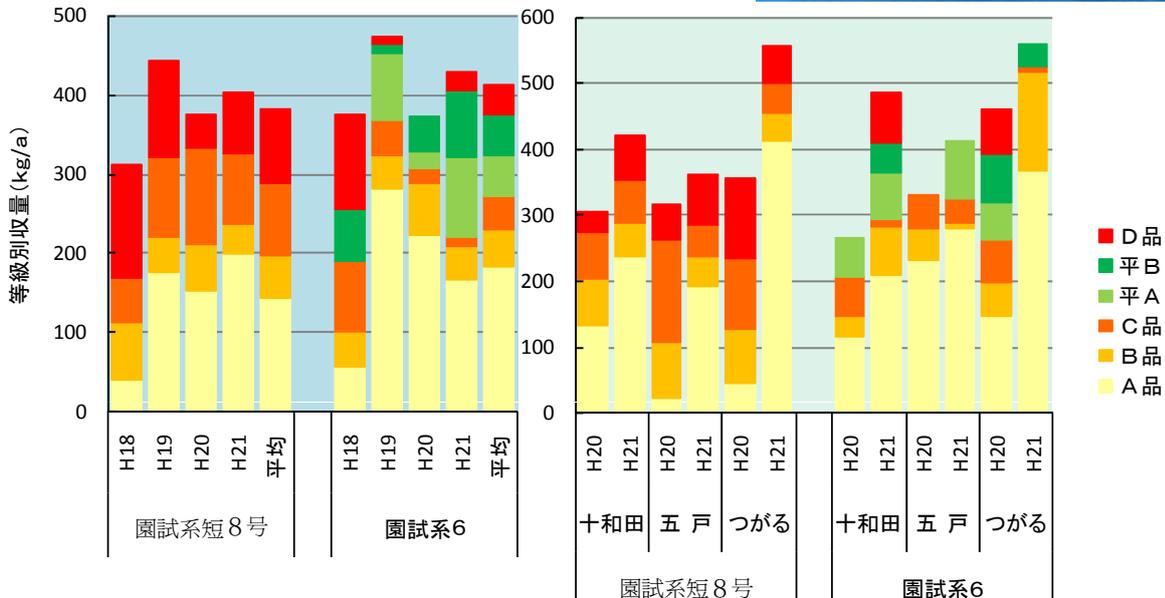
来歴

平成4年「園試系6」のむかごにガンマ線を照射して得た変異個体から、首長が短く、肩が張り、肥大の良好な短太系統を選抜しました。

特性(「園試系6」対比)

- いも長、首長：9割程度と短い。
- いも径：同等～やや細い長径と短径の差が小さい。
- いも重：やや軽い。
- その他：胴が均等に太り、尻どまりが良好。

収量・品質



「園試系短8号」の等級別収量(所内圃場)

「園試系短8号」の等級別収量(現地圃場)

総収量は「園試系6」よりやや少なく、こぶ、溝(生理傷)によるC品、D品の発生はやや多くなりますが、平いもはほとんどありませんでした。「園試系6」など普通系統では長大化し、先細り、曲りの発生しやすい砂丘地圃場においても形状が安定します。

お問い合わせ

野菜研究所作物改良部まで(Tel0176-53-7419)

大玉で食味の良い日本なし「あきづき」の特性

地方独立行政法人青森県産業技術センターりんご研究所

本県の日本なしは「八雲」、「長十郎」などの旧来の品種が多く、新品種への更新が必要になっています。県南果樹部では本県の気象条件に適し、消費者ニーズに合った優良品種の選定試験を行ってきました。その結果、「あきづき」は大玉で果実の外観や品質が優れる晩生品種として有望であることを明らかにしました。

来歴

(独)果樹研究所が育成、両親は「162-29(新高×豊水)」×「幸水」、平成13年に品種登録

果実の特性

- 収穫期は10月上旬～中旬、果実は450g程度で大きく、玉揃いは極めて良好です。
- 果形は扁円形で、果皮は黄褐色で外観は良好です。
- 硬度はやや低く、肉質は緻密で果汁が多め、酸味が少なめで食味は良好です。
- 試食アンケートの結果、88%の人が「非常においしい」または「おいしい」と評価しました。

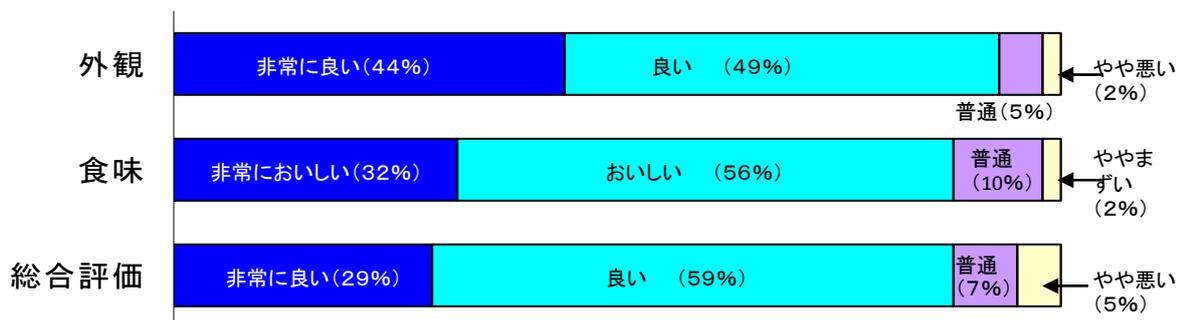


開花期と果実品質

品種名	開花日 (月日)	収穫日 (月日)	1果重 (g)	地色 指数	硬度 (ポント)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)
あきづき	5/ 8	10/ 8	450	3.7	4.4	11.8	0.15
長十郎(対照)	5/ 7	10/14	415	4.2	6.6	12.2	0.24

「あきづき」の果実外観

注1. 平成17～20年の4か年平均、立木仕立て 注2. 地色指数:「ニホンナシ(地色)」カラーチャートの1(緑色)～6(黄色) 硬度:ペネトロメーター型硬度計 糖度:Brix 酸度:リンゴ酸換算



試食アンケートの結果

注1. 平成20年10月3日収穫果を使用 注2. 回答人数は41人

栽培上の留意点

- 果梗が折れやすいので、横向きや斜め下向きの果実を残してください。
- 収穫が遅れると、す入り症状などの果肉障害が発生することがあるので、適期に収穫してください。

お問い合わせ

りんご研究所県南果樹部まで(Tel0178-62-4111)

田んぼアート用の白い稲「青系観175号」

地方独立行政法人青森県産業技術センター農林総合研究所

短稈で葉色が紫色の「紫稲」、黄色の「黄色稲」、緑色の「観稲」は、近年、観賞用・景観用として田んぼアート等に使われています。当研究所が育成した「青系観175号」は、葉及び穂が白いため、これまでの3色と合わせて使用することで、田んぼアートを一層色彩豊かな図柄にできるため、田んぼアートに取り組んでいる自治体、団体から注目されています。

項目	青系観175号	つがるロマン
葉色	淡黄緑～白色 に緑色の縦縞	緑
芒の多少・長短	少・短	中・短
顔色・ふ先色	黄白・白	黄白・白
耐倒伏性	やや弱	中
出穂期(月・日)	8月13日	8月8日
稈長(cm)	43.9	77.2
穂長(cm)	19.4	17.6
穂数(本/m ²)	287	367
玄米収量(kg/a)	22.5	57.6
同対標準比(%)	39	(100)
玄米千粒重(g)	18.9	22.1



「青系観175号」の草姿

青森県産業技術センター農林総合研究所での試験成績
(平成18～21年)



平成21年度の田舎館村田んぼアートより(白色部が「青系観175号」)

「青系観175号」は、草丈が短く、茎数が少なく、葉色は、葉身・葉鞘とも淡黄緑～白色に緑色の縦縞を有します。出穂期頃にかけて、白い部分の割合が多くなるため、株全体としては白く見えます。見頃は最高分けつ期頃から出穂期頃です。

今後の展開

平成21年度は、本県の田舎館村の田んぼアートの白い図柄の部分に試験的に利用しました。また、村おこし・町おこし等で田んぼアート等に「青系観175号」を利用出来るよう、平成22年度からの種苗供給体制を整備中です。

お問い合わせ

農林総合研究所良食味米開発部まで(TEL0172-52-4312)

ただいま研究中!

野生きのこの栽培化を目指して!

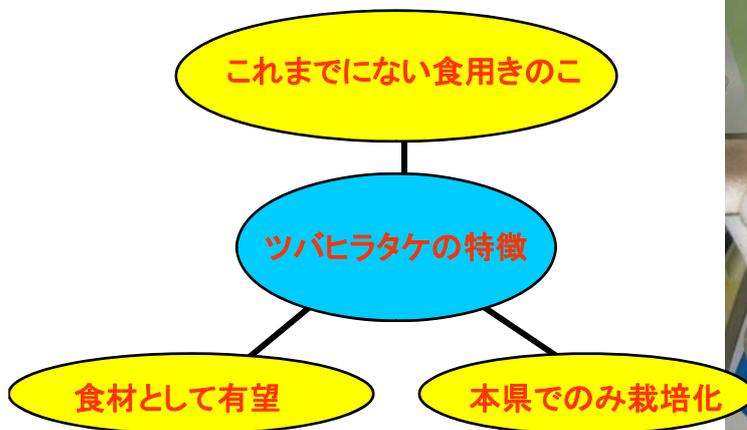
～ツバヒラタケの人工栽培化～

地方独立行政法人青森県産業技術センター林業研究所

林業研究所では、新たに需要が期待できる特徴ある食用きのことして、本県に自生する野生きのこの栽培化に取り組んでいます。その中でもツバヒラタケは、珍しいだけでなく有望な食材としてレストランなどから評価を得ており、その抗酸化作用から健康食品の開発なども期待されています。

これまでの成果

これまで林業研究所では、ブナオガクズ、リンゴの剪定枝チップなどを用いて、菌床栽培試験を行い、栽培日数、発生率や収量などから、人工栽培化が期待できるという結果を得ています。また、価格が安く、入手の容易なスギオガクズを培地に用いた試験では、混合する栄養材などの種類や割合により、収量の増加と安定が期待できるという結果を得ています。



ツバヒラタケ発生状況

培地組成の違いが発生量等に及ぼす影響

試験区	培地組成	平均発生重量 g	最少発生重量 g	最多発生重量 g	平均発生本数 本	最少発生本数 本	最多発生本数 本	平均収穫日数
1	スギオガ : フスマ : ホミニーフィード = 10 : 1 : 1	29	16	45	1.9	1	3	62
2	スギオガ : フスマ : ホミニーフィード = 10 : 2 : 1	51	37	59	2	1	3	63
3	スギオガ : フスマ : ホミニーフィード = 10 : 1 : 2	112	103	120	5.1	4	8	58

今後の展開

生産量を安定させ、商品化するためには、培地材料、生産現場が有する施設、栽培環境の違いが形や味など子実体に与える影響などをさらに蓄積して、安定栽培技術として取りまとめていきます。

お問い合わせ

林業研究所森林環境部まで (TEL017-755-3257)



お知らせ

飼料用稲「うしゆたか」、「みなゆたか」の開発が FOOD ACTION NIPPON
アワード2009の優秀賞を受賞しました。

地方独立行政法人青森県産業技術センター農林総合研究所

農林総合研究所では、青森県など北東北の気象に対応できる飼料用品種として、サイレー
ジ用にわらから子実まで全てを利用する「うしゆたか」と子実をエサとして利用する「みな
ゆたか」を開発し、このことが食料自給率向上へ寄与すると評価されて、このたび、FOOD
ACTION NIPPON アワード2009 研究開発・新技術部門優秀賞を受賞しました。

この受賞を励みに今後も本県の農業発展に貢献できる研究開発に取り組んで参ります。



FOOD ACTION NIPPON アワード2009表彰式
平成22年1月15日品川グランドセントラルタワーにて
壇上右から3番目が野呂農林総合研究所長



お知らせ

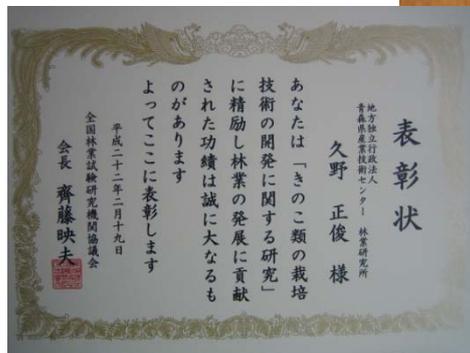
林業研究所の久野研究管理員が全国林業試験研究機関協議会第22回研究功
績賞を受賞しました。

地方独立行政法人青森県産業技術センター林業研究所

都道府県林業試験研究機関で組織する「全国林業試験研究機関協議会」では、林業分野の研究
に顕著な業績があった研究者を「研究功績賞」として表彰しています。

今号にも掲載しましたが、林業研究所の久野研究管理員は、新たに需要が期待できる特徴ある食
用キノコの商品化を目指して、本県に自生する野
生キノコの「ツバヒラタ
ケ」の安定栽培試験など
に取り組んでおり、この
ほど、これまでの研究成
果等が評価され、全国林
業試験研究機関協議会第
22回研究功績賞を受賞
しました。

久野研究管理員の益々
の活躍が期待されます。



第22回研究功績賞授与式

平成22年2月19日東京大学弥生講堂にて



編集・発行

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 農林総合研究所

〒036-0522 青森県黒石市田中82-9

TEL 0172-52-4346 FAX0172-52-4399

ホームページ <http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=552>